

新たなふれあいと感動がここから生まれる

(仮称)地域交流プラザ基本計画・基本設計ダイジェスト版

浅羽会館の老朽化に伴い、新たな「にぎわい」と「交流」を育む南部地域の拠点施設として、(仮称)地域交流プラザの整備を進めています。

このたび、施設整備の基本となる設計が完成しましたので、平面図やイメージ図をご覧いただきながら、諸室の機能などについてご説明します。



完成イメージ図

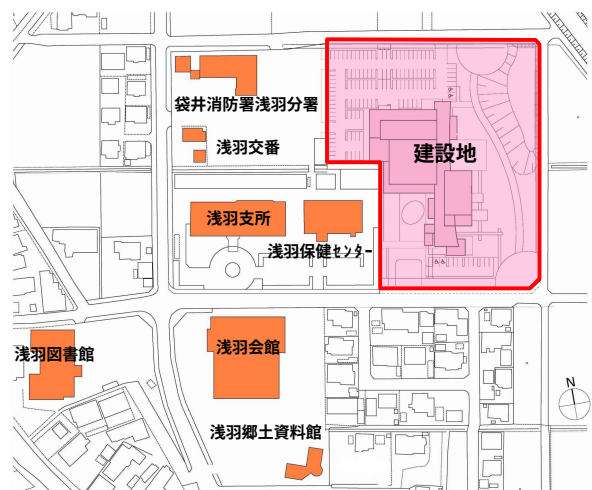
袋井市(仮称)地域交流プラザは、老朽化した浅羽会館に代わる南部地域の新たな“にぎわい”と“交流”の拠点であり、合併後の市民の一体感を醸成し、均衡あるまちの発展を促す施設として建設します。

このたびの「(仮称)地域交流プラザ基本計画・基本設計」は、将来的なまちの発展を視野に入れ、市民ワークショップやアンケート調査など、市民のみなさんの意見を基に作成しました。

■ 浅羽支所周辺の一体的なまちづくり

浅羽支所周辺は、浅羽支所をはじめ、浅羽会館、浅羽保健センター、浅羽図書館、浅羽郷土資料館等の公共施設が集まる市南部地域の中心部です。

このため、(仮称)地域交流プラザの整備をきっかけとして、景観や環境、快適性に配慮した一体的なまちづくりを進めます。





浅羽支所屋上より建設地を望む

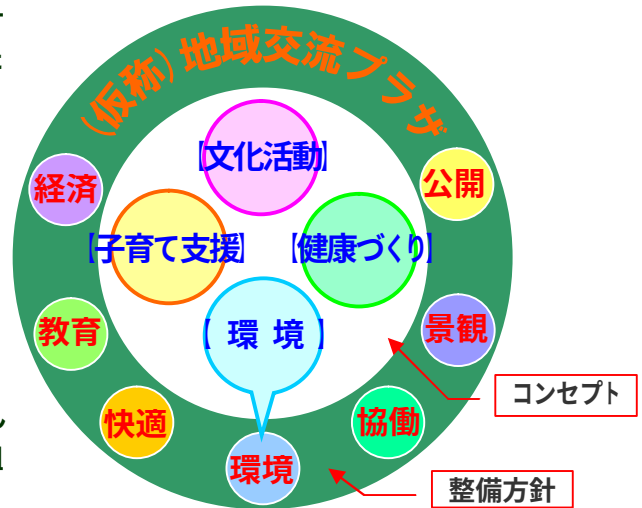
■ 施設概要

- ◆ 位置づけ 「南部地域の拠点」「にぎわい・交流」「健康」をキーワードとした複合型多機能施設
- ◆ 建設地 浅羽4171番地の1 外10筆（浅羽支所東側）
- ◆ 施設規模 敷地面積：14,031㎡ 延床面積：約4,000㎡
- ◆ 施設構造 鉄筋コンクリート造一部2階建て
- ◆ コンセプト
 - 文化活動 …生涯学習機会の創出・徳育の推進・人材活用
 - 子育て支援 …子育て親子の交流・育児相談
 - 健康づくり …機会の創出・食育・地域ヘルス・モーションの推進
 - 環境 …温暖化対策・省エネ・リサイクル

■ 整備基本方針

本施設は、ホールや子育て支援施設、工房、調理室などの機能を持つ複合型多機能施設であることから、基本設計を進めるにあたり、共通の整備基本方針を定め、一貫した施設づくりを進めます。

- ◆ 環境 環境に配慮し自然との調和・共存できるよう、自然エネルギーやリサイクル製品の活用に努めます
- ◆ 快適 すべての人が容易で気軽に利用できるよう、ユニバーサルデザインやバリアフリーを積極的に進めます
- ◆ 協働 市民と行政が対等の立場で意見を交わし、みんなで知恵を出し合いながら施設づくりに取り組みます
- ◆ 教育 市民の生涯学習意欲を高めるとともに、次代を担う人づくりを進めます
- ◆ 景観 白砂青松や田園、里山などの原風景を生かし、やすらぎやゆとりを醸す景観づくりに取り組みます
- ◆ 経済 建築から運営まで常にコスト意識を持って事業を推進します
- ◆ 公開 広く情報発信し、市民の声を生かした施設づくりに取り組みます



■ 市民協働で作った設計図

(仮称) 地域交流プラザの基本計画と基本設計は、平成19年2月から市民ワークショップを立ち上げ、“文化活動”“子育て支援”“健康づくり”の3部会で、市民の視点から設計に必要な提案をするための検討を繰り返し行って来ました。

その結果、デザイン性よりも機能性を重視し、利用形態に合わせて空間を自在に変更することができることなどの具体的な提案がなされ、このたびの設計に反映することができました。

今後の市民ワークショップは、本施設での事業を企画していきます。



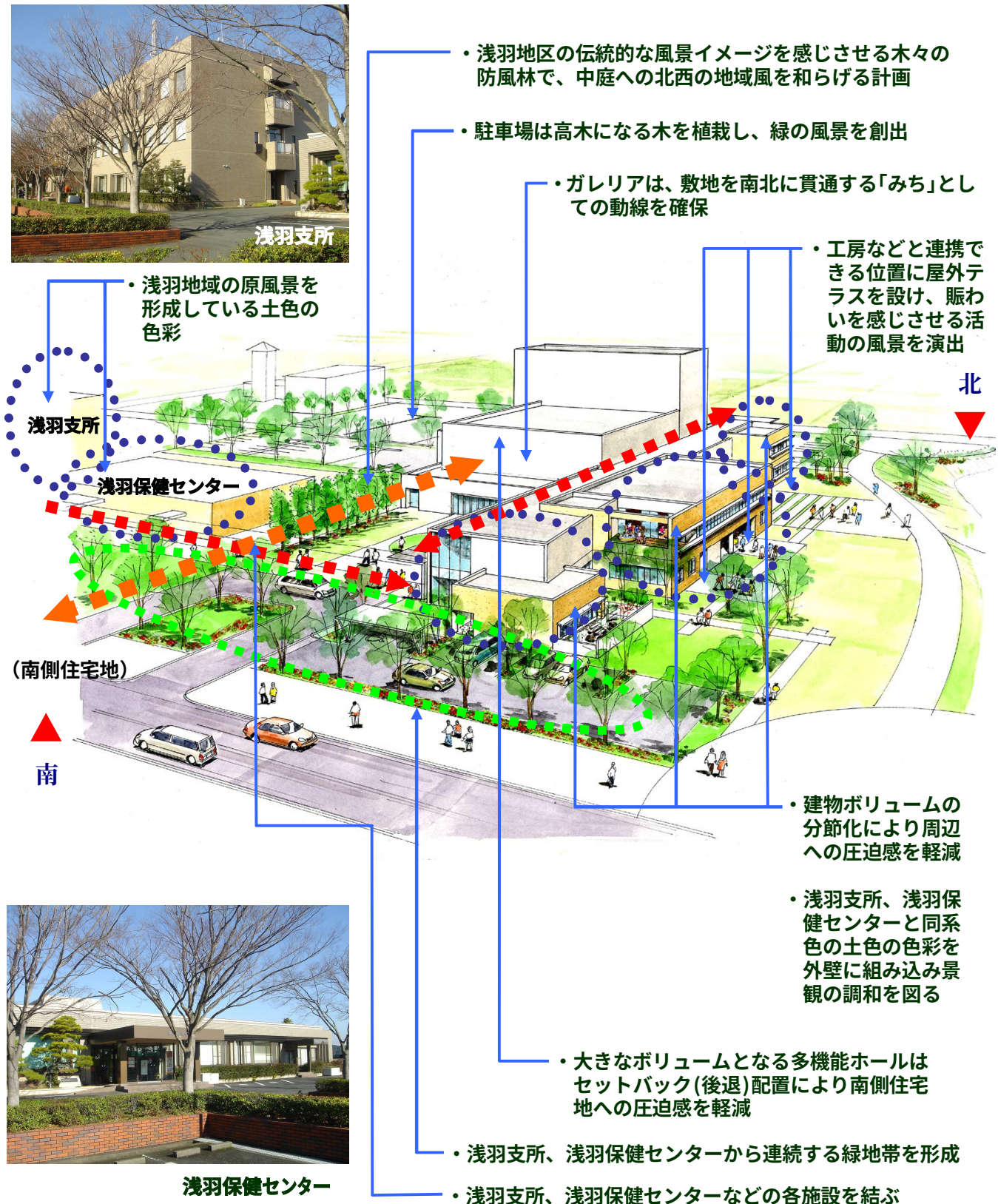
市民ワークショップは3部会、15名で構成し、計15回にも及ぶ検討を重ねて来ました

■ 景観計画

隣接する浅羽支所や浅羽保健センターに合わせた色彩を建物の外観に組み込み、周辺の景観に調和した外観デザインとします。

計画建物は、大規模な施設となるため、建物を施設機能ごとに区切ることによって周辺への圧迫感を軽減し、田園が広がる原風景になじみやすいよう配慮します。

建物周辺は、舗装範囲を最小にとどめ、緑地を確保するとともに、植栽を多くし、緑豊かな風景づくりを行います。



■ 施設機能

この施設は、長さ約 50 メートルにも及ぶ、アーケードのような作りをした「ガレリア」を軸に、諸室が顔をのぞかせ、お互いの活動を垣間見ることによって、刺激し合い、活動の輪を広げ、新たな“にぎわい”と“交流”を生みだす仕組みとなっています。

1 階

◆ 多機能ホール

500 人が収容でき、音楽、演劇、軽運動などに利用できます。

椅子は全て可動式で、収納することにより、現在の浅羽会館同じく約 500 m²の平らな床になります。

一部の壁が開放できるため、ガレリアやホワイエ、さらには屋外を結び一体的な利用を可能としました。

災害時には避難所として機能します。

◆ 1 階会議室

30 名程度が利用できる会議室を 2 部屋設けています。

可動式の間仕切りを開放すると大会議室としても利用できます。

◆ ものづくり工房

皮工芸・絵画など水場を必要としない手芸教室などに適した工房です。

◆ 調理室

郷土料理や地元の食材を生かした各種教室など市民活動が行いやすいよう配慮しました。

◆ 食工房

浅羽地区は、味噌・漬け物・豆腐づくりなどが盛んに行われています。

豊かな地場の食材を生かし、おいしく健康な食習慣を身につける機会を創出するために設けました。

作業後は清掃しやすいように洗い流しが可能な床を採用しています。

◆ 管理事務室

インフォメーション機能等に配慮し、来館者の出入りや館内の様子が分かりやすい場所に設置しました。

◆ サポータールーム

本施設の開館後は、市民協働の下、各種イベントや教室の運営などに市民が参画できる仕組みが必要です。

市民の皆さんがこの施設を活用し、様々な活動を展開することができるよう設置しました。

◆ 和の空間

日本古来の伝統の美を感じる場として設置しました。

茶道や華道など伝統文化を継承し、作法や徳育などを身につける空間としていきます。

2 階

◆ 2 階会議室

60 人程度が利用できる会議室です。

教室や工房などとしても活用でき、子育て支援施設の機能なども補完します。

◆ 壁面ギャラリー

書や絵画などの展示コーナーとして、壁の一部に埋め込み式のギャラリー機能を設置しました。

◆ 親子交流広場(子育て支援施設)

子どもの安心を第一に考え、幼児、児童、親同士が交流の場を提供します。

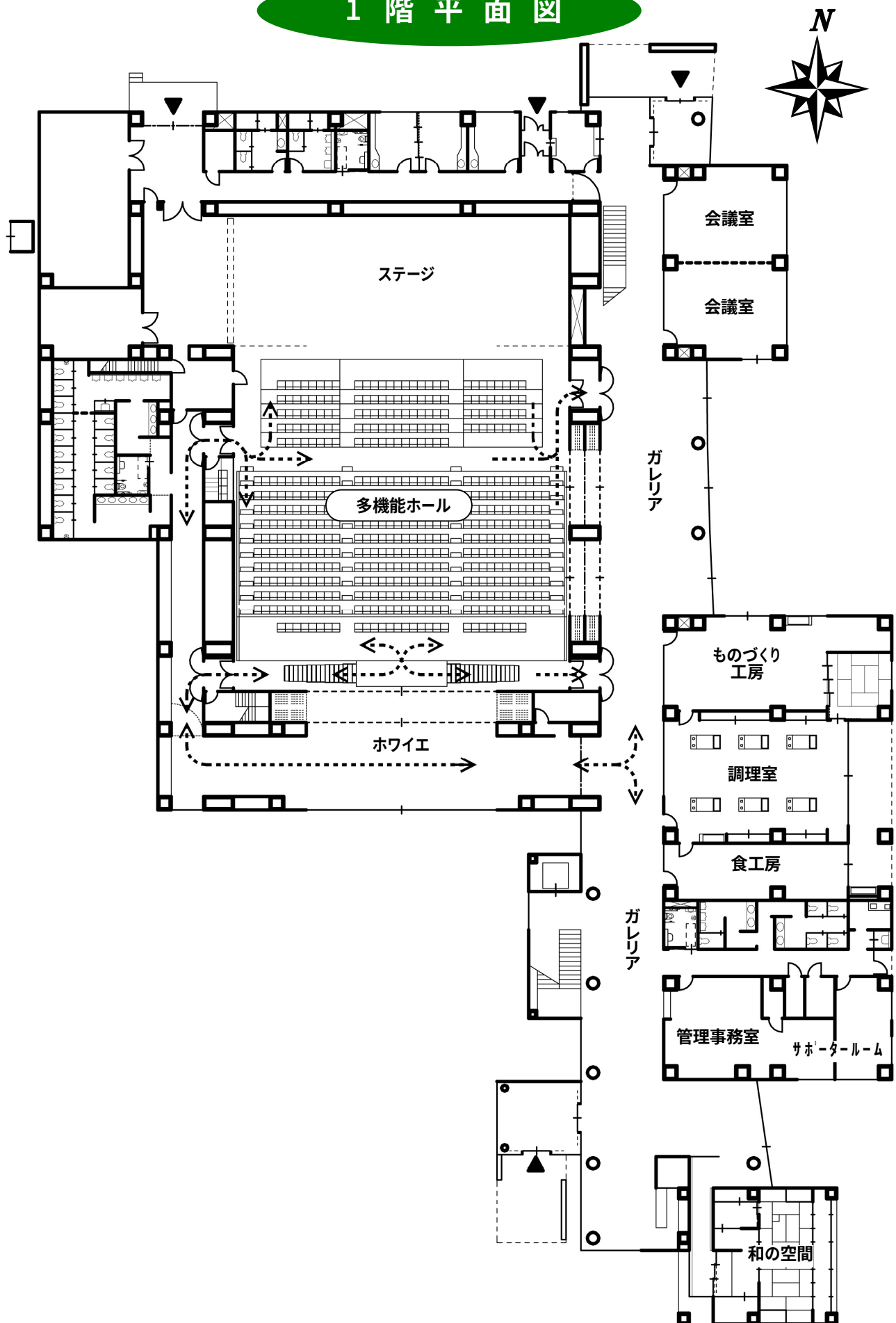
授乳室やオムツ替えコーナーなども設置し、安心で快適にご利用いただけるよう配慮しました。

内部と外部を一体化し子どもが安心して外で遊ぶことができるキッズテラスを設けたことが特徴です。

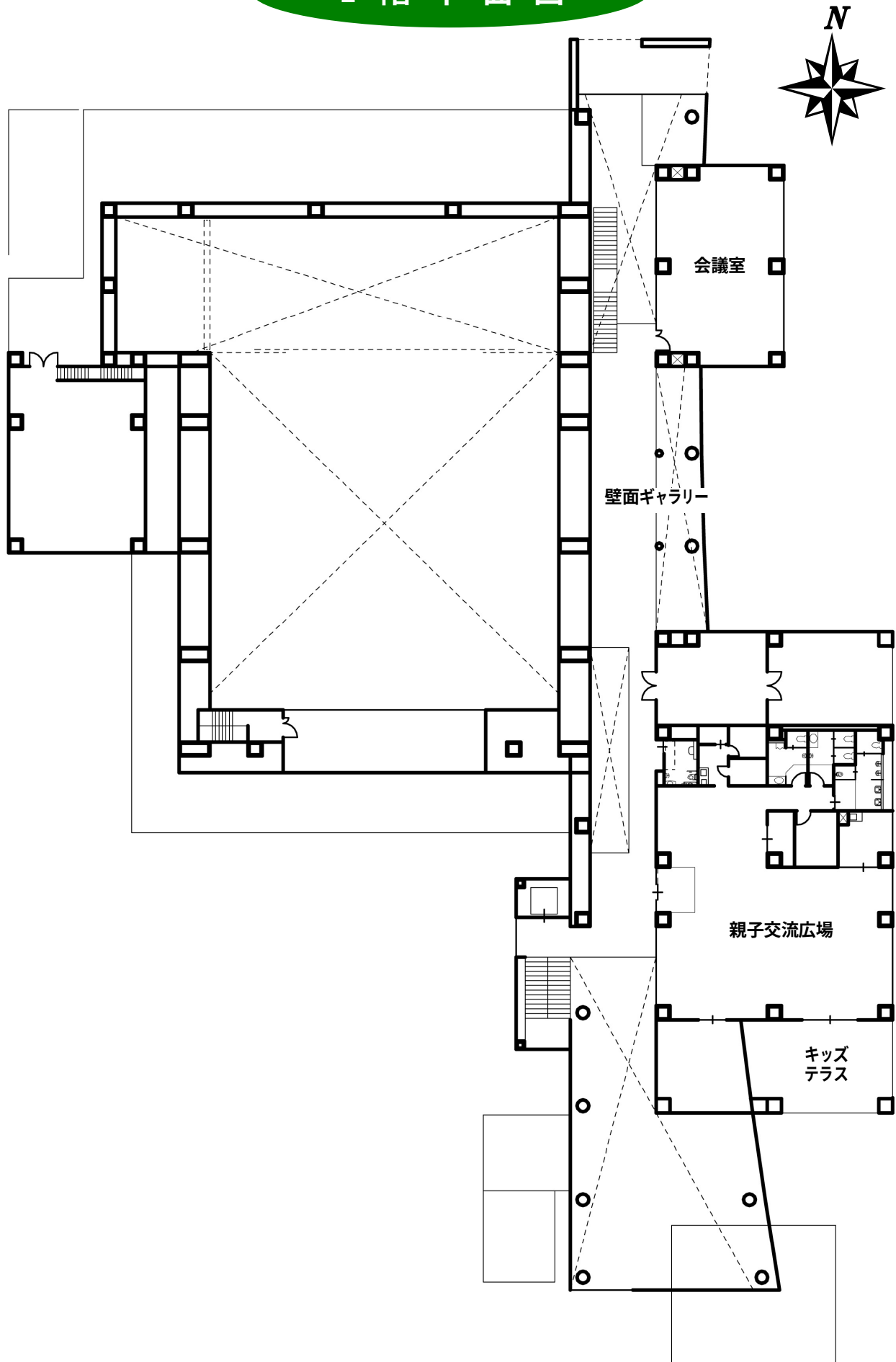
屋 外

市民の皆さんが自由に集うことができるテラスやちょっとした野外イベント、朝市などができる中庭、散歩道などを設けています。

1 階 平 面 図



2 階 平 面 図



★ プラザの特徴 その1 変幻自在な多機能ホール

施設のメインとなるホールは、501人を収容し、音楽、演劇、講演会など、利用人数や催し物の内容に応じてホールの形態を変えることができます。

客席のいすは全てを可動式で、前部の138席と後部363席は切り離して収納でき、いすを全て収納すると、約500㎡の平らな床面となります。

ステージは270㎡あり浅羽会館のステージの約1.8倍の大きさです。音楽仕様(シューボックス形式)から舞台仕様(プロセミアム形式)へと変化し、市民の皆さんの様々な活動の成果を発表する場としてご利用いただけます。



1 501席の大ホール



2 363席の小ホール



3 平土間のホール



4 スラストステージ

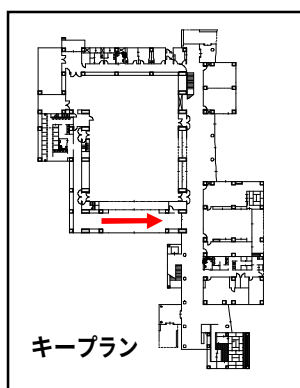


5 センターステージ

前部可動席は、椅子を3つのブロックに分けてステージ横に収納することができ、利用人数に合わせた客席となる。

後部可動席は、椅子を後部に集めさせ、地下に収納する機構を用いた。

前部可動席の床は、上下に1メートル昇降し、ステージとして活用できる。



ホール入口付近の空間として設けたホワイエは、通常はゆったりとくつろげるロビーとしてご利用ください。



ホワイエの通常利用時



ホール屋外との一体的利用時

ホール東側のホワイエに面した壁(遮音性可動間仕切り)を開放すると、ホワイエや屋外とを一体的に利用できる空間が生まれます。

利用者の想像力を無限に広げ、さまざまなイベントの可能性を引き出します。

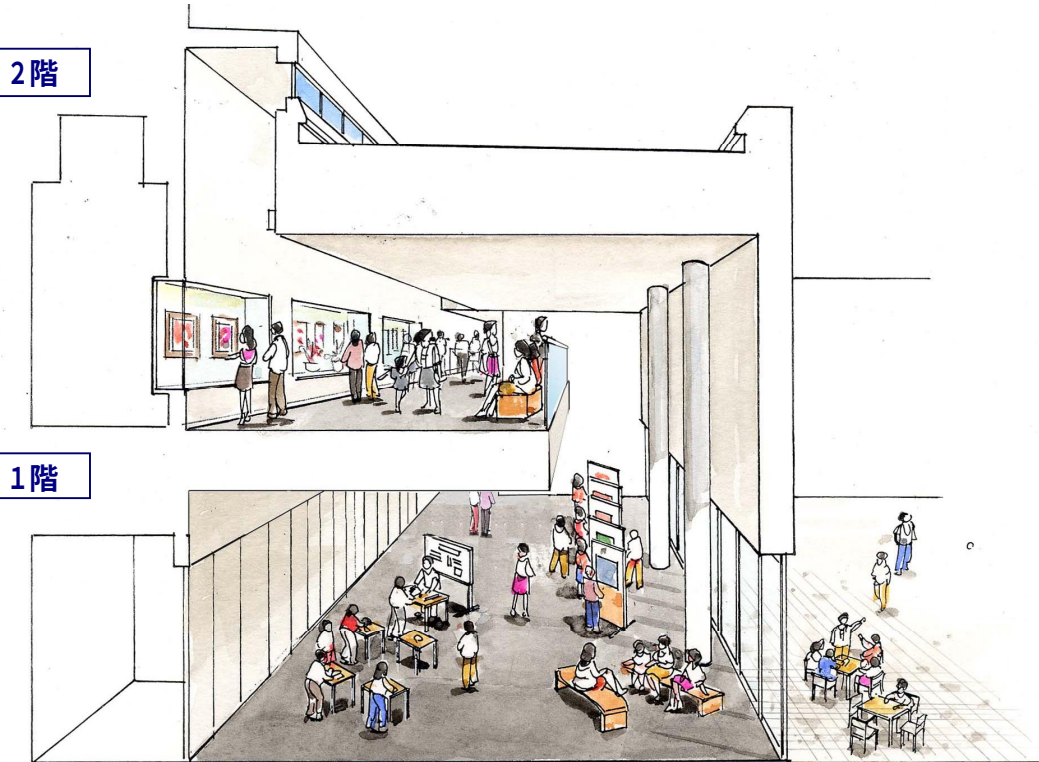
★ プラザの特徴 2 交流の機会を創出するギャラリー

ギャラリーとは、イタリア語でアーケードのような歩行者空間のことです。

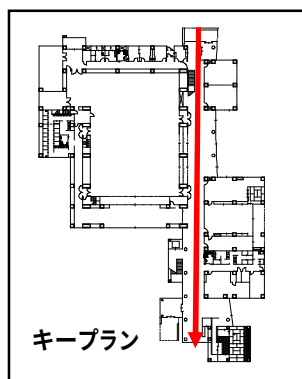
施設の南北を貫くギャラリーは、全長約 50 メートルあり、多機能ホールやものづくり工房、調理室、食工房などが、まるで店舗のように顔を除かせます。

ギャラリーに面した諸室は、内部の活動状況が見える構造になっていて、来館した皆さんが、お互いの活動から刺激を受け、新たな生涯学習や交流の機会を創出することができるよう配慮しました。

2階



1階



キープラン



ギャラリーから見た調理室付近の様子

お互いの活動を知ることによって新たな発見があり、参加することで新たな交流の輪が広がります。

★ プラザの特徴 3 CO₂の削減に向けてパッシブソーラーシステムを採用

空調設備の補助機能として「パッシブソーラーシステム」を採用します。

パッシブソーラーシステムは、大気熱や地熱の自然エネルギーを利用した環境にやさしい空調です。

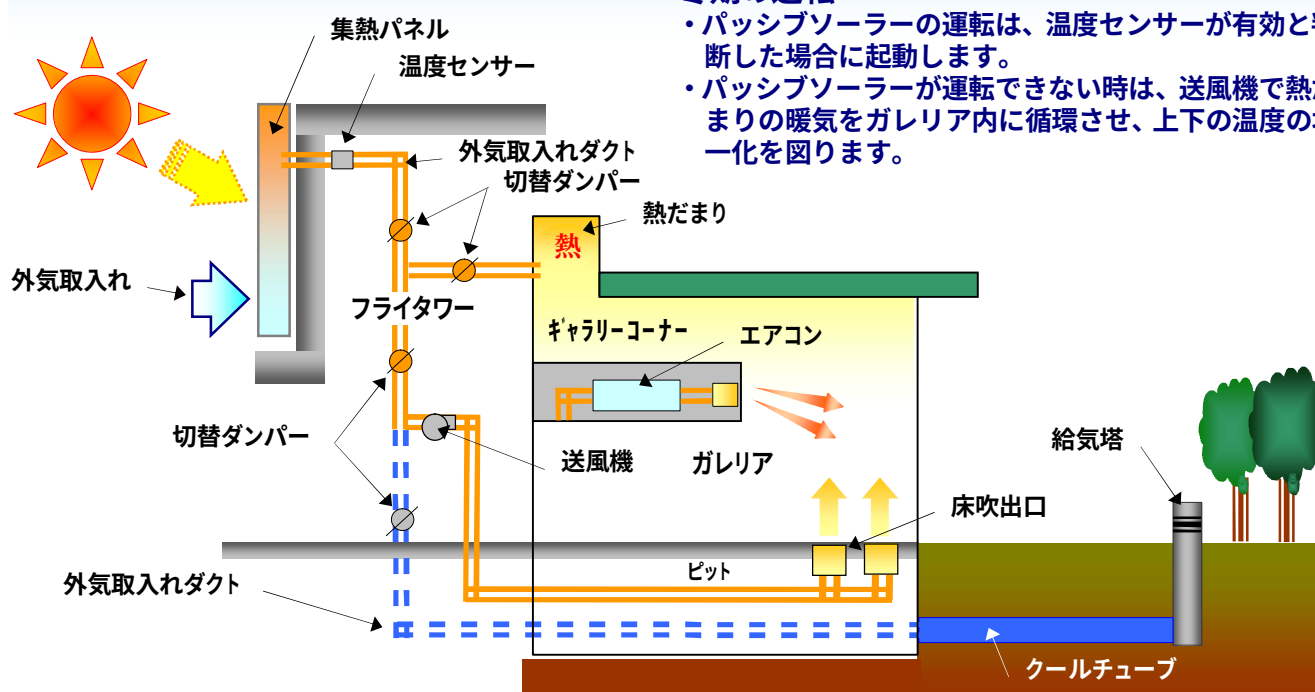
夏は、地下のパイプから冷気を取り込み、冬は建物南面の外壁に設けた集熱パネルで空気を暖め、ダクトにて1階のギャラリーなどへ吹き出します。

空調に外気を取り入れることで、CO₂と経費の削減を可能にします。

パッシブソーラー・クールチューブシステム概念図

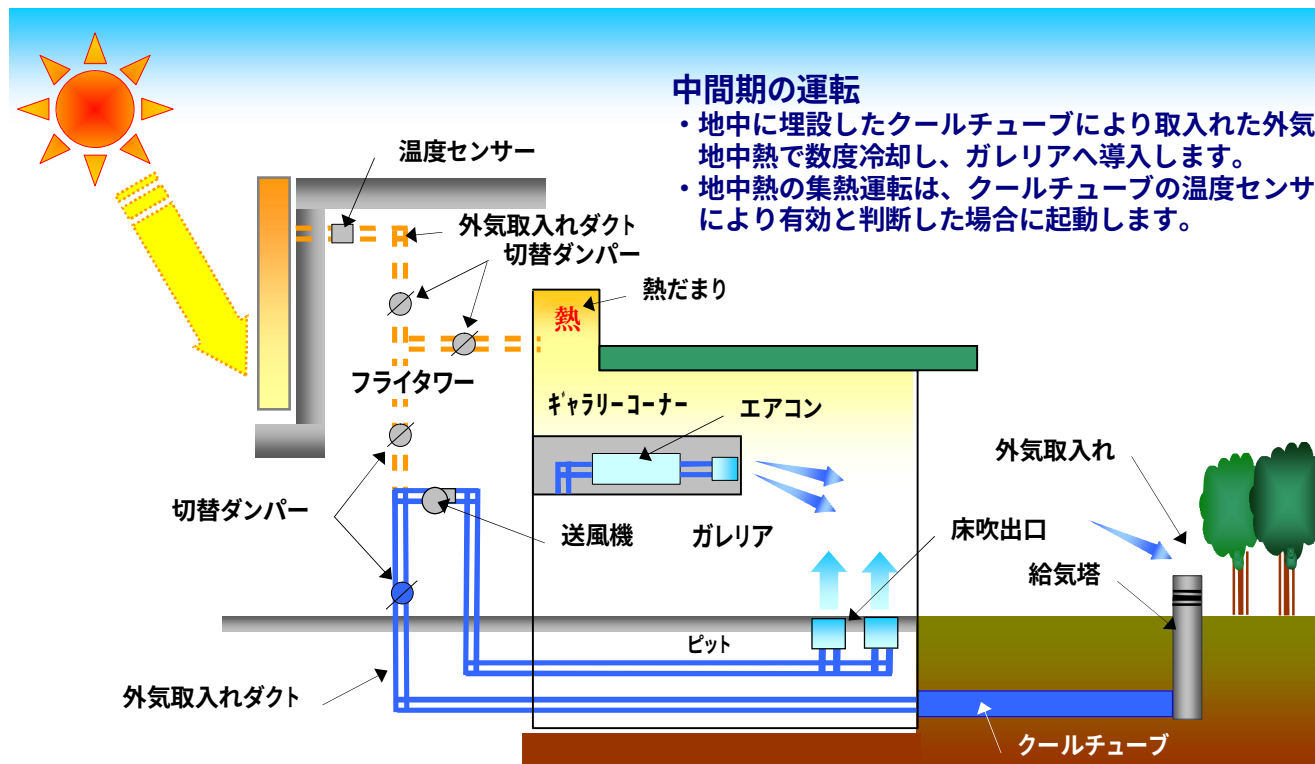
冬期の運転

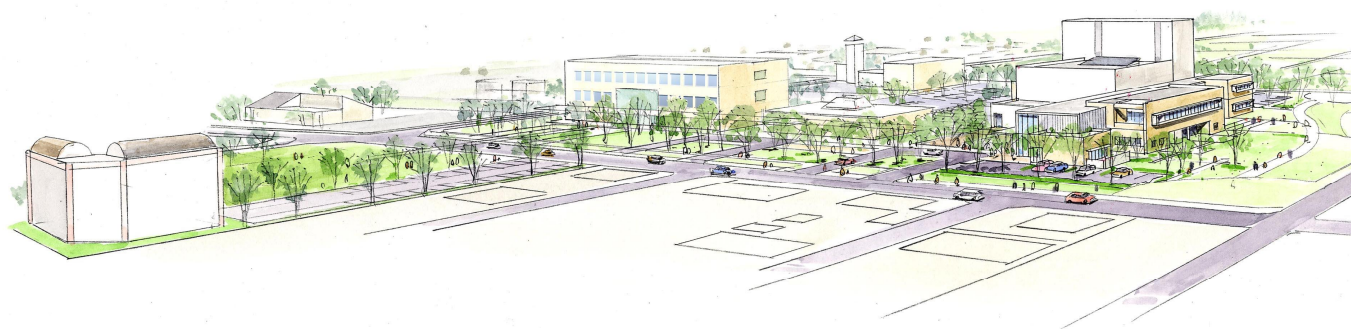
- ・パッシブソーラーの運転は、温度センサーが有効と判断した場合に起動します。
- ・パッシブソーラーが運転できない時は、送風機で熱だまりの暖気をギャラリー内に循環させ、上下の温度の均一を図ります。



中間期の運転

- ・地中に埋設したクールチューブにより取入れた外気を地中熱で数度冷却し、ギャラリーへ導入します。
- ・地中熱の集熱運転は、クールチューブの温度センサーにより有効と判断した場合に起動します。





お 問 い 合 わ せ 先
袋井市役所浅羽支所地域建設課会館建設室
〒437 -1192 静岡県袋井市浅名1028
TEL:0538 -23 -9239 FAX:0538 -23 -9210
E-mail:c_kensetsu@city.fukuroi.shizuoka.jp

(仮称)地域交流プラザ事業の概要は市ホームページでご覧いただけます。
ホームページアドレス: <http://www.city.fukuroi.shizuoka.jp/>